

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後クラブともだち		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 19日		2025年 3月 5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28 (回答者数)	24
○従業者評価実施期間	2025年 2月 19日		2025年 3月 5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者と職員の関係性	帰りの送迎はせず、保護者の方に迎えに来てもらうことで、その日の子どもの様子、雰囲気などを感じ取ってもらえるようにしている。そうすることで、保護者と職員、相互に顔の見える関係性を築くことができている。	保護者の見学交流会を実施し、保護者の方に子どもたちの様子や支援の様子をより身近に見てもらえる機会や、職員とのコミュニケーションの場を作る。
2	地域の方々との連携	地域の学童の子どもたちを招いて一緒に運動会をする、高校の音楽部の方を招いて歌ってもらう、公民館の文化祭のポスターを子どもたちと作るなど、地域の方との交流や地域に貢献できる活動を意識的に実施している。	散歩の活動の時にゴミを拾う、イベントでのリサイクル活動など、地域に貢献できるような取り組みを行う。
3	業務改善	職員間での困りごとやヒヤリハットを共有し、会議の場で改善策を周知している。また、ノー残業デーを推進し、職員がリフレッシュする、また職員一人ひとりが業務を整理する仕組みを設けている。	ICT化を図り、児童の申し込み管理、職員の勤務管理などを進める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童や支援方法についての共有	利用児童が多く、支援者も多くなるため、支援における細やかな共有が充分でない所がある。	ミーティングで全体に共有、支援に入る前に個別で共有、紙面で共有など、その都度必要に応じて共有方法を使い分ける。
2	生活空間が狭い。	利用児童の増加に伴う必要な職員の数も増加している。特に長期休暇中は利用児童も多く、生活空間が狭くなっている。	集団での支援を実施し、子ども同士で過ごす力を育む。また職員も複数の児童を支援できる力を育む。そうすることで少ない職員で複数の児童の支援ができるようにする。
3	児童一人ひとりに合った活動を提供することが難しい。	児童一人ひとりの障害の程度のちがいや、興味、関心もちがうため、活動によっては取り組みない日が生じている。	最初から最後まででなくとも、部分的に参加できるよう視覚支援を用いて誘いかけたり、カレンダーで見通しが持てるようにする。また児童一人ひとりの興味、関心のある物を取り入れる。さらに、グループ活動を進め、児童同士で活動に誘い合えるように支援する。